

①「障害者週間」作品展

入場無料

全国から募集した「障害者週間のポスター」の全推薦作品の原画(79点)及び「心の輪を広げる体験作文」の最優秀賞作品(4編)を展示します。

日時 令和4年12月3日(土)～9日(金)10:00～20:00

会場 スクエア ゼロ(JR東京駅改札内地下1階) **主催** 内閣府

※右ページ下の案内図をご確認ください。

令和4年度「障害者週間のポスター」最優秀賞作品

【小学生区分】



えがお きな みやび
「その笑顔をいつまでも」 喜納 雅

沖縄県 名護市立名護小学校(6年)

【中学生区分】



じゆう うご しゃ かい みずいで ひな た
「自由に動ける社会へ」 水出 向日葵

群馬県 高崎市立第一中学校(3年)

令和4年度「心の輪を広げる体験作文」最優秀賞作品

心の輪を広げる体験作文 審査講評 令和4年度「心の輪を広げる体験作文」審査委員会委員長 三田 誠広

小学生
区分

「一緒に歩いていきたい」 浅沼 稟佳

茨城県 茨城大学教育学部附属小学校(5年)

盲導犬の訓練を受ける前の仔犬を一年間育てるボランティアを家族とともに体験した小学生の話です。ただ仔犬とともに暮らしただけでなく、盲導犬というものに興味をもち、視覚障害者の方にネットでインタビューして盲導犬の役割を知るまでの経過が描かれています。このような経過で健康者と障害者のつながりができるのはすてきなことだと感じました。

中学生
区分

「ショウコさんと私と」 榎 奏子

秋田県 秋田大学教育文化学部附属中学校(2年)

絵画教室で出会った知的障害者の女性のようなすを描いたものです。自由奔放に生きながら魅力的な絵を描く女性の姿が、ごく自然な賛嘆につながっていて、偏見のない書き手の受け止め方に共感できますし、何よりもこのショウコさんという女性像に感動しました。

高校生
区分

「彼女の「すべて」」 小林 咲葵

東京都 学習院女子高等科(1年)

高校生部門の作品ですが、描かれているのは中学生のころの思い出です。ネットの交流サイトで注意欠如・多動性障害(ADHD)の女性と親しくなり、話題が次々に変わっていく彼女の話しぶりに当惑したりもするのですが、始めのうちは相手の障害を意識していた書き手がしだいにそうした先入観から自由になっていき、一人の人間としてつきあえるようになるさまがいきいきと描かれています。

一般
区分

「苦しくても、苦しくても」 銘苅 幸也

沖縄県

学生のころに強迫性障害の診断を受け、わずかな光や音が苦痛をもたらし、唾を飲み込むことも苦痛だという症状に悩まされ、引きこもり状態になっていた書き手が、家族や支援者に支えられて回復していくさまが描かれています。当事者でなければわからない苦しみ切実に伝わってくる作品です。

